

三多摩フォーラム大成功！！

■参加者数は新記録 343名！

2月26日、第18回三多摩学童保育フォーラム（三多摩フォーラム）が行われました。当日は大雨というあいにくの天気でしたが、新記録の343名の方の参加がありました。

昨年までは研究集会という名称でしたが、担当者部会を行っていくうちに、今年度の開催地である西東京市の役員から「もっと親しみやすい名称にしてほしい」との要望があり「学童保育フォーラム」としました。

また分科会の名称を分かりやすいものにし、選ぶ基準として「おもしろい、ためになる、いやされる」の3つのポイントをチラシに掲載しました。このような取り組みが343名の参加ということにあわけてきたのだと思っています。

また開催地の西東京連協からは雨の中カッパを着ながら道案内係り、駐輪場係りなど述べ50名を越えるお手伝いをいただき、参加者も128名と一市からの最高参加者数となりました。

■研究集会初の歓迎行事が行われました。

西東京連協会長の田中さんの挨拶のあと、プロジェクターを使って西東京市や学童クラブの紹介、学童クラブや指導員の状況などが報告されました。その後、指導員と父母による学童の子どもの生活という劇が行われました。ひげが生えていたり、髪が少し薄かったり「こんな子どもいないよー」などの声もあがり、楽しい劇でした。数度の練習を行ったことで、本来必要な「子どもを真ん中」にした指導員との関係の重要性を改めて考えさせられ、とても意義のあるものとなりました。



■ためになって、わかりやすい基調報告

なんと劇にも出演した古谷事務局長による基調報告が行われました。今年は資料に「2006フォーラム キーワード集」が載せられ、難しい専門用語がわかりやすく解説されていたこともあり、「ためになって分かりやすい」との声がありました。

■ためになって、いやされた全体講演

全体講演は子ども総合研究所所長の新保庄三先生をお招きし、「子どもが真ん中、広げよう笑顔と子育ての輪」という題でお話を伺いました。

時には熱く、時には優しく話される姿に場内は感動の嵐となりました。「子どもは宝。生きているだけでいい。時代を選べない、とう言葉が胸深くに残りました。」「新保先生の話は、涙があふれ、今日帰ったら、子どもの名前を目を見て、抱きしめて呼びたいと思いました。」「子育ての中で、悩むことは、多々あるため、今日の話はとてもためになったし、これからの参考になりました。」などの感想がありました。



■どれも好評！12の分科会

「わかりやすく、参加にしやすい名称」「とにかく学童にこだわった内容」をコンセプトに12の分科会を企画しました。「教室での子どもたち」等、これまで人気のあった分科会を思い切っってなくし、とことん学童に関係する内容にしました。いくつかを紹介します。

◇1-A これに出れば全てがわかる！？

全国連協の事務局長でもあり、三多摩連協の副会長でもある木田さんが講師となり、「学童保育の基礎」を確認する分科会です。

学童保育が出来たいきさつから、今抱えている問題まで、丁寧に解説してもらいました。



「他市の学童の様子や指導員さんのお話がきけてよかった。学童のことをまた少し理解できたような気がする。」

「学童のことは何も知らないので、大変ためになりました。」などの意見が寄せられました。

◇2-B がんばれ！働くお母さん

自らも指導員として30年以上、働きながら子育てをされてきた高橋よしエさんのお話を聞きました。講師のお話に涙するお母さんもいました。参加した方から、「自分だけが辛い思いをしてるのではない、みんなががんばっているとはげまされた。」「いろいろな意見が聞けてよかったです。考え方は十人十色！！いろいろな意見を参考にしながら子育てして行こう！！と思いました。」「講師の方やみなさんのお話を聞いてとても感動したりためになりました。今日この分科会に参加して本当によかったです。」などの感想が寄せられています。

タイトルは、「がんばれ！」でしたが、その言葉の後ろにある、「一人ががんばらなくていいんだよ」というメッセージがにじみ出ている分科会でした。

◇2-C 変質者の罠から子どもを守ろう！

今一番の問題になっている「子どもの安全」に関わる分科会ということで、参加者が一番多い分科会になりました。ビデオやDVDを見た後に行ったグループ討議が大変盛り上がりました。またその後に行われたワークショップも大変意義のあるものだったとのことでした。



「内容が具体的でわかり易かった。ビデオなどでマップ作りの取り組みの様子が紹介され、考え方、作業の進め方などよくイメージできた。」「地域、PTA、学童クラブそれぞれが協力することの大切さ、保護者がやるべきこと子どもが身につけなければいけないことがよくわかりました。」などの意見が寄せられました。

◇3-C 毎日、子どもの笑顔に出会えますか？

町田で指導員をされている小野さんの助言をもらいながら、指導員の思い、悩み、工夫などを交流する分科会でしたが、6名の父母の方も参加され、親の思い、指導員の思いも共有できました。

「他の学童の指導員の方々の話、熱意、親御さんの考えを聞けてとても参考になりました。明日からの指導の糧としていきます。」「保護者の方の参加も多数あり、それぞれの悩みを出し合いながら中身の濃い充実した話が出来た。」などの意見が寄せられました。



◇4-B 楽しく遊ぼう！集団遊び

「遊びの学校」の菅原先生をお招きして、学童保育の中で楽しめる集団遊びを学びました。

ベーゴマやこままわし、じゃんけんあそびにおにごっこ。道具を使ったり、体を動かしたり、親も子どもも楽しめる遊びを教えてくださいました。

「なごやかな雰囲気です。リラックスしながら、とても楽しくすごせ、即保育に行かせるものばかりです。活字でしか先生とはお逢いできませんでしたが、今度から先生の催し物にも参加したくなりました。」という意見が寄せられました。



◇保育室

今回、保育士を目指す学生さん6名に保育をお願いしました。いつもなら近くの公園とかにも連れて行ってもらうのですが、あいにくの雨でしたので室内の保育のみになりました。それでも限られた環境のなか、学生さんたちが工夫をして子どもたちに接していただきました。

「保育をお願いしていましたが、本当に良く見ていただき、子どもも大喜びでした。ありがとうございました。」などの意見が寄せられました。



■その他 アンケートから

アンケートをいただいた中からいくつかを紹介します。

・この雨の中、これだけの出席があり、父母の思いの強さを感じました。指導員としてももっと

もっと意識を高めていかないと！ と思います。お疲れ様でした。340名！すごい！

・初めて参加しましたが、大変参考になりました。是非、例年参加、勉強会等ありましたら、参加したいです。

・会場が、こじんまりとしていて良かった。西東京の皆様ありがとうございました。「学校の先生」が助言者の分科会が今回なかったですね。

・初めて参加させて頂き、学童保育の奥の深さを改めて実感しました。

指定管理者制度導入、全児童対策、民間委託など今後の展望、課題に多く触れることができ、もっと勉強し、より良い保育を目指したい、と思いました。

良い機会でした。ありがとうございました!!

・名称変更、全体的な流れなど、良かったと思います。次回も参加させていただきます。

・名称変えてgood。制度の動きが早い中で、親同士の連携はさらに必要と思う。(指導員、地域、行政もですね。) 役員の皆様、ありがとうございました。

■懇親会

フォーラム終了後懇親会が行われました。50名を越す参加(これも新記録!)があり、夜が更けるまで交流を行いました。



今回の私たちの合言葉は「リピーターを作ろう!」でした。「次回も参加したい」というご意見が多数寄せられ、そういう意味でも大成功だったと思います。再来年は東京で全国研究集会が開催される予定です。今年の流れを来年以降に続けていきたいと思っています。

皆さん、ご参加、ご協力ありがとうございました。

(文責 三多摩連協事務局次長 菊池)

◆多数の参加、ありがとうございました

第18回三多摩学童保育フォーラム
(最終集計)

	親	指導員	その他	合計
八王子市	2	3		5
立川市		2	1	3
武蔵野市	20	2		22
三鷹市	2	6		8
青梅市				0
府中市	19			19
昭島市		6		6
調布市	3			3
町田市		3		3
小金井市	52	1		53
小平市	30	2		32
日野市	4	1		5
東村山市	13			13
国分寺市	2			2
国立市	8			8
西東京市	110	15	3	128
福生市				0
狛江市	2			2
東大和市	1			1
清瀬市	5			5
東久留米市	1			1
武蔵村山市				0
多摩市	5	3		8
稲城市		2		2
あきる野市				0
羽村市				0
瑞穂町				0
日の出町		2		2
奥多摩町				0
小計				331
三多摩役員	6			6
三多摩以外				6
合計	285	48	4	343
招待		1	6	7

◆「日本の学童ほいく」を読もう!

「日本の学童ほいく」は月46,000部以上を発行している、日本で唯一の学童保育専門誌です。毎月の特集記事では子育て、家庭、指導員などの問題を取り上げて様々な角度から検証しています。持って歩いて読みやすいサイズになっていますが、時には涙する感動的な記事があり、電車などで読む時には注意が必要です。全国連協の運営費のほとんどはほいく誌の売り上げで賄っています。また三多摩連協や各市の連絡会の運営費の一部にもなっています。毎月ごとに購読もできますが、年間購読をお勧めしています。

2005年9月号を読んで

今年から学童のことを少しでも理解できかなと、『日本の学童ほいく』を購読しています。最新の9月号は「学力」の特集でした。何年前かに「ゆとり教育」とかいていたのに最近では「学力低下」が問題になっているんですね。みんな塾に通っているはずなのに……。親にとっては深刻な問題ですね。結局、受験のためだけの学習なのでしょうか?

しかし、この学童ほいく誌を読んでいると、学童に通っている子供たちの実にいきいきとした様子が、保護者や指導員さんのお話を通して伺うことができます。子供たちは、いろいろな遊びや、学年の違う友達と一緒に過ごすことにより、さまざまなことを学んでいるんですね。それに保護者の方々の体験談もたいへん参考になります。

子供に一方的に勉強を押し付けるのではなく、日々の生活から自然と養われていくものは、子供の力になっていくんですね。

(西東京市 父母)

★年間購読 3960円 一冊 330円

お申込は各市の連絡協議会へ

—— 編集後記 ——

こここのところ毎年1号しか発行できずでしたが、2006年度からは年4回の発行を目指していきたいと思っています。次号は9月ごろを予定しています。お楽しみに!

(編集担当 菊池)